

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200495		
法人名	ラブネットサービス株式会社		
事業所名	とんがりぼうし		
所在地	倉敷市玉島柏島688-1		
自己評価作成日	平成26年3月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200495-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の「あるがまま」を受け入れ、「その人らしく」生活していただけるよう、「桜梅桃李」の理念のもとに、日々のケアをしています。ご家族様とスタッフが、情報共有し、コミュニケーションを深められるよう、面会時や、電話連絡、請求書発送時に近況報告を添えるなど、積極的に働きかけ、入居者様にとって何が一番いいことか、また、ご家族様の思いも受け止めながら、支援につなげています。職員は、外部研修に参加した後、スタッフ会議で研修発表し、皆が、自己研鑽、自己研磨しあえるよう、努めています。入居者様、ご家族様、職員の笑顔あふれるホームを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

H22年4月に開設したホームは4年目を迎えた。管理者・主任は開設当初からの職員であるが、その他の職員は大幅な入れ替わりがあり、手薄になった人員体制に苦慮してきた。法人の他部署の職員や社長の応援もあり何とか乗り切ってきた1年間だった。今は良いメンバーに恵まれて心機一転前向きに頑張っていると管理者が言う様に、職員の得意分野を活かしそれぞれが役割分担をして「チームとんがり」の協力体制が出来ている。「とんがり新聞」の4コマ漫画のエピソードもNO. 39になり、担当者が「題材はいくらでもある」と言う程、日々の生活の中で微笑ましい出来事が一杯ある。訪問した日は庭の桜が満開であり、花見に参加出来なかった管理者の為にと急遽、戸外の桜の下でお昼の食事をすする話が持ち上がり、即、実行した職員のフットワークの良さに感心した。今後も期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ことあるごとに言葉にし、職員ひとり一人が日々心掛け、ミーティングも常に理念をもとにしたものとなっている。	「桜梅桃李」の理念を掲げ、欠点を長所に変え、チームとんがりで頑張ろうと職員一人ひとり個人目標を持ち、自分のステップアップにつなげている。職員の人員体制も整い、心機一転、前向きに頑張っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域のお祭りや、みこしに、ホームに立ち寄って頂き、共に楽しい時間を共有している。ホームの新聞を、公民館、ごみステーションに張り出させてもらい、地域住民にもみてもらっている。	「とんがりぼうし新聞」を毎月発行し、地域に向けて情報発信をしている。特に利用者との日々のエピソードを描いた「4コマ漫画」はとても好評だ。祭りのこども神輿の立ち寄りや近所の人がボランティアでホームの畑の世話をしてくれる等の交流がある。	目標達成計画に掲げた、保育園、幼稚園、音大等との定期交流の取り組みを今度も引き続き計画に挙げ、是非実現に向けて取り組み、地域交流の輪を広げて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、人員配置が困難であった為、会議が開催できない状況であった。来年度は、年6回の開催に努めていきたい。	職員の人員体制が整わず、この1年間、運営推進会議が一度も開催出来なかった。現在は職員も補充でき、体制も落ち着いてきたので、来年度は通常通り2ヶ月毎の会議を開催する予定にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険事業者連絡協議会に加入し、研修に積極参加。連携を深めている。	今年度は市の介護保険事業者連絡協議会に再加入し、研修会に参加、他の事業所との情報交換や交流もできている。市の担当者には何かあればその都度相談し、指導やアドバイスを受けている。H26.1月で市の介護相談員の2年の期間満了したところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」の研修がある時は、進んで参加している。入居者様の安全面に配慮し、センサーマット、玄関センサーを使用する等、自然な暮らしを支えるようにしている。	玄関の施錠はなく身体拘束も一切していない。外に出るのが好きな人には職員が付き添い、安全の確保に努めている。職員間で身体拘束について話し合い、周知徹底を図っている。	高台にあるホームの庭の先がのり面になっており、ロープが張ってはいるが、危ない箇所がある。今までは何事もなかったようだが、念の為、安全対策を今一度話し合ってみるのも良いと思う。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修には、必ず参加するように努めている。参加後は、スタッフ会議で研修発表し、情報共有しあいながら、入居者様の虐待につながらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用している入居者様があり、後見人さんと直接、話し、接することで職員も理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、面会時に、利用料金や起こりうるリスク、施設の方針、重度化した時の料金変更等、十分な説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時に近況報告し、積極的に意見交換を行っている。また、必要な際は、電話連絡している。家族会では、職員が個別にご家族と話し合う等し、なんでも言ってもらえる様な雰囲気づくりに努めている。	家族会を年3回開催しているが、今後は年4回にしたいと思っている。ホームの庭の紅葉が見頃の時、巻き寿司大会を行い、家族も参加して楽しんだ。家族より“職員の手薄な人員体制や入れ替わりに対して不安”との意見もあり、日頃から意見や要望を言い易い関係づくりが出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアのことで気づいたことや、改善できることを、職員に自由に提案してもらい、試したりし、常時意見交換している。	毎月スタッフ会議を開催している。ケア会議には各自、議題を持って参加し職員間で意見交換している。職員の服装の規制はないが“ジーンズ禁止”の提案はしている。職員の意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に来、入居者様や職員と話したり、雰囲気を感じ取り、状況把握している。電話でも、常時相談にのってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修に、職員が交代で参加できるように積極的に勧めている。また、家族会でも、学んだことを伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者連絡協議会に加入し、研修に積極参加。連携を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人に会い、話す中で、生活状況を把握し、要望、疑問点を聞く時間を作っている。入所後は、施設の雰囲気馴染んで安心していただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護の悩みを受容し、他の家族も同様の悩みをもっていると話し、事業所としては、どのような対応ができるか、事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの早期実行を基本とし、状況確認し、専門的な視点から改善に向けた支援の提案、相談するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の可能性を見極め、できることをして頂き、出来そうな事は、積極的に為し、共にやりがい、生きがいを持てるように、日々努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をこまめに報告・相談し、コミュニケーションをとり、協力、共有して頂ける関係を作れる様努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人は自由に面会、外出でき、贈り物のお礼の電話をする等、連絡を取り持ったり、暑中見舞い、年賀状を出す等、つながりが途切れないよう、努める。	誕生日、母の日、父の日、敬老の日等には家族・親戚等からプレゼントが届いたり電話がある。墓参りに出かける人や年賀状は自分で書ける人は出している。面会も多く、今日も県外から面会に来ている弟さんや妻に会いに来ているご主人に出会った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞き、不安解消に努めたり安心していただき、利用者間の関係が円滑になるよう、協同作業やレクレーションを通し、働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合も、生活環境、支援の内容、注意点など、情報提供し、細やかな連携をとるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりあいの中で、離れた家族への寂しい思い等、利用者の言葉や表情などから、真意を推測、確認、把握し、家族とも話し合う機会を積極的に作っている。	利用者と職員が1:1でじっくり関わる「10分間ケア」に重点を置き、その日一日の中で利用者が10分でも楽しいと思える時間を持つようにしている。利用者とよく話し合い、思いや意向を把握し、満足度の高いケアを実践していこうと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握する為、事前に家庭訪問し、生活歴や暮らし方、自室、生活環境を確認し、本人や家族から聞き取りをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを尊重し、利用者様中心に、その人らしく一日を過ごしていただけるよう、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、関わりあいの中で意見を聞いたり、体調、表情の変化、観察をおこたらず、スタッフ間でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行っている。	計画作成担当者は利用者の担当職員と一緒に話し合いながら、利用者が生活を楽しめるような支援内容をプランに取り入れている。担当制を敷き、プラン作成に関わることで職員も責任を持ち、モチベーションも上がってきた。	ケアプランの目標はシンプルかつ実現し易い具体的なものが良い。“10分間ケア”の中から、出来るだけ利用者の「真の言葉」を拾い出し、その人の暮らしの満足度を高めるようなプランを作成して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、本人の表情や言葉を重視し、生活の様子を記録し、申し送りノートを活用する等、情報を共有、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ、買い物、ドライブ、散歩、必要な支援は柔軟に個別対応し、一人ひとりの満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が、ボランティアで畑の手入れをしてもらえるようになった。利用者も共に草ぬきしたり、収穫したりし、よい関係が来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		職員は利用者の受診に同行し、医師との話、今後の診療方針、処方、診断名等を受診報告書ノートに記入し、職員間で情報の共有をしている。他科受診はほとんどの家族が付き添っている。ホームの協力医の往診や週1回の訪問歯科もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、医療の知識を勉強し、利用者の健康管理や相談を協力医に24時間連絡がとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、在所中の様子や、支援方法を情報提供し、定期的に職員が見舞い、家族とも状況報告、情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、話し合いを重ね、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意思を確認している。	ホームでの看取りの経験もあるが、終末期のあり方については契約時に説明し、家族に延命治療の意向確認をしている。この1年間では医療的治療が必要となり入院後亡くなった人が1名。今後も本人・家族の意思を尊重しながら出来る限り希望に添った支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医の医師や看護師に、積極的に応急手当や初期対応の方法を聞いたり、具体的な事例検討をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、入居者と一緒に、避難訓練をしている。災害時、民生委員からの応援も確約している。	年2回、日中・夜間想定避難訓練を実施し、地域の人へ参加の呼びかけもしている。消防署の定期的な点検も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんなことをしたいか、何が希望か、本人の思いを尊重し、自己決定しやすい言葉かけをし、さりげないケアを心がけている。	「どれにしますか」ではなく「〇と〇どっちにしますか」と利用者が選びやすい聞き方をしている。この日のヤクルト販売では「イチゴとブドウ、どっちにしますか？」と聞いていた。一人ひとりの自主性を大切に、プライドを傷つけない声かけや対応を心がけている。	その人にとってのストレスは何か？を職員はよく考えて欲しい。日頃から利用者の状態をよく観察し、変化や言動を拾い出し、ストレスの原因・要因を話し合っ欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から、好物、趣味、余暇の過ごし方等を、探り、複数の選択肢を提案し、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしのペースを大切にし、外出、買い物、散歩、外気浴、ドライブ等、希望に合わせた個別支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な、訪問理美容、更衣の際の洋服選びや、季節の洋服の買い物、本人のこだわりのスタイルを尊重し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の際、好みの食材やおやつを買ったり、調理から配膳、後片付けまで、食事に関わる事すべて、何らかの形で利用者と共にしている。	今日は庭の桜が満開。昨日に引き続きお昼は庭で食べる事に決まった。テーブルを用意し、桜の木の下で皆で食事を楽しんだ。リビングがいい人は、室内でゆっくり食べている。料理の下準備から利用者と職員が共に作るこの台所は賑やかな会話が飛び交っていた。	転倒のリスクを考え、日頃から利用者が調理の手伝いをしてもらえる機会が多いキッチンマットの固定方法を工夫した方が良いと思う。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、毎食の食事量をボードを使い、チェックしている。検食簿を利用し、食材やメニューが重ならない様にしたり、入居者の好みや嫌いなものを、普段の会話から把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度、訪問歯科を利用し、口腔状態の把握に努めている。また、口腔マッサージや、ケアの仕方も積極的に習うようにしている。自立の方は声かけし、出来ない方は、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎防止などにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、定期的な声かけ、誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。また、立位が不可な利用者は、安楽の為、ベット上でパット交換している。	各居室にトイレが設置してあり、プライベートな空間でゆっくり出来る。排泄が自立している人の排便確認は、トイレ掃除の時に職員がさり気なくチェックしている。便秘予防に食物繊維の食事や牛乳の摂取を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を使った飲み物を提供し、コップでの水分摂取が進まない方には、とろみをつけて器で提供し、スムーズに水分が摂れるように工夫している。また、家事や、日々の生活を通し、体を動かす様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に合わせて、入浴して頂いている。入浴拒否のある方は、男性職員なら入浴していただけるので、好みに合わせて入浴していただいている。	入浴日は火・木の週2回、土を調整日としている。男性が苦手な人や入浴拒否が強かった人が、新しく入った若い男性職員が声をかけるとすんなり入る人が2人もいるという不思議な事もあるようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の好きな場所(ソファーや廊下の椅子)で過ごしていただいたり、午睡したり、日中活動も配慮している。メリハリをつけるため、昼食後は、ホールを消灯したりし、生活のリズムを整えるよう努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人ファイル、薬ケースに保管し、変更があった場合は、業務日誌に記入し、生活記録表の備考欄に、いつから服薬開始になったか、わかるよう記載している。口頭でも申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとり一人の好きな事、笑顔になれる事、はり合いになるものを共に探し、達成感、喜びを感じていただけるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物、特別な外出行事、ドライブ等、ひとり一人の希望を把握し、添えるよう支援している。気候の良い時期は、公園でお弁当を食べるなども喜ばれるので支援している。	スーパーに行き自分で試着して洋服を買う楽しみ、回転寿司での外食、初詣、花見、海岸へドライブ等、出来る限り気分転換を兼ねて外出支援をしている。家族の協力もお願いし、外出・外泊の支援をしたり、日常的な買い物や散歩にもよく出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、おこづかい程度のお金を別口で用意してもらえる方は、買い物の際、自分の好みのものを自分の財布から、支払いをしている。他の方は、立替え金で買い物し、本人が安心、満足できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に、暑中見舞い、年賀状を出す支援を行っている。届け物のお礼や、声が聞きたくなった時は、いつでも電話していただけるよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたフロアの飾りつけや、玄関の花々は、利用者と共に考え、共に作り、居心地良く過ごせるよう、工夫している。また、日にちがわかるよう、習字の得意な利用者に日めくりカレンダーを書いていただいている。	大きな桜の貼り絵が目を引きリビングには、ここでの日々の暮らしの写真やエピソードが「とんがり新聞」で掲示されている。調理が得意な人、洗濯干しを手伝う人、「恥ずかしいから見ないで」と言いながら計算ドリルをしている人等、職員と一緒に自分の出来る事をしながら過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、お気に入り、落ち着ける場所があり、自由に過ごせるようにしている。廊下の椅子で一人過ごしたり、ソファでは、利用者が、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と同じに家具設置している方もおり、仏壇、位牌を置く方もおり、本人が居心地良く過ごせるよう、工夫している。また、伝い歩きがしやすいように、安全面にも配慮した設置をしている。	掃き出し窓から入る陽光も明るく、居室内のトイレに行く時の転倒防止にローチェストを配置してある部屋、お気に入りの人形と寝起きを共にしている人、家族の写真を飾っている人等、それぞれ落ち着いた自分らしい居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、その都度職員で話し、事故なく自立支援につなげていけるよう支援している。		